

# 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター 能力開発部長兼職業能力開発施設所長・あけぼのの家所長が思う 「知的障害者への就労支援③」

第1回の前々号では、障害のある方々が働くとした時、社会一般の常識や無理解から活動を阻まれる場面があることや、障害特性により様々な困りごとを抱えておられることをお伝えしました。第2回の前号では「自分らしく働く。或いは、働き続ける」ことを支援する福祉サービスについて、PDCAサイクルを取り入れて提供している旨をご紹介させていただきました。第3回となる今号では、地域の社会資源、およびその一つである「職業能力開発施設」についてご紹介させていただきます。

## 1 地域の社会資源

障害のある方々が「働きたい」と思った時、思いを叶えるためにどのくらいの選択肢があると思われますか？

お一人おひとりの能力や取得スキルなどによって当然違いがあるとは思いますが、思い立ったが吉日で、そのままハローワークで相談し求人に応募するという方もおられるでしょうし、民間の人材紹介センターを活用するという方もおられるかもしれません。或いは、すぐに求人に応募して働くとなると様々な不安が頭をよぎるため、まずは働くためのトレーニングを受けて準備段階を経てから働くと考えられる方であれば、短期間でトレーニングが受けられる障害者職業センターや、相談に乗って貰いながら就職準備が進められる障害者就業・生活支援センターを活用される方もおられるでしょうし、本格的に技術を学んで就職を目指したいとなれば職業能力開発校に入校して学ぶという選択肢もあります。勿論、前号で紹介した就労移行支援事業といった福祉サービスを活用して、就職を目指すという方も相当数おられます。

障害のある方々の就労を支えることを目的とした事業所や機関は様々ありますが、それぞれの支援機関が、訓練から相談、照会、定着までの就労に係る全てを完結させている訳ではありません。各々の役割を果たしながら、時には互いを活用しつつ、言わば一つのチームとして障害のある方々の「自分らしく働く。或いは、働き続ける」との思いを支援しています。

## 2 職業能力開発施設



兵庫県には「職業能力開発施設」（以下：能開）という施設があることをご存じでしょうか？

能開は兵庫県が独自に設置した施設で、その特徴は、利用の要件や定員、固定された訓練がないことであり、「いつでも、誰でも、どんな訓練でも」を三原則とした運営を行っています。また、政策施設としてさまざまな兵庫県の就労支援事業にも取り組んでいます。

基本的には、製造や流通、事務作業を想定した場面設定法によるワークサンプル（模擬作業標本）に取り組んでいただきます。そのプロセスで作業性（速度、制度、耐久力）や理解力、労働習慣等、働くために必要な力がどの程度備わっているのか、得意なこと、苦手なこと、力を発揮できる環境等を総合的に評価し、ご利用者の適職選定を含めた今後の支援計画の立案に役立てていただいております。

ここで、能開が兵庫県から委託を受けて運営している県の就労支援事業について紹介させていただきます。

### （1）障害者体験ワーク事業（通称：しごと体験事業）

具体的には、しごと体験の受入企業等の開拓・確保を図り、職場体験の円滑な実施に向けた支援を行っています。

当該事業については、特別支援学校在校生の他、就労移行支援事業所等に所属されている方々にも活用いただいております。将来、就職して働きたいと希望される方々ですが、多くの場合、社会経験の乏しい方が多く、就職を希望する業種の実際の仕事を見ることが



出来る貴重な機会であると喜んでいただいている。受入企業様の業種や体験内容が多岐に渡ること、体験までのやりとりが簡素なことなどもご好評いただいている。

(ご参考) 昨年度の体験者数は216名、受入企業は214企業、延818日でした。

なお、このしごと体験事業については、様々な企業様に職場実習の受入企業としてご協力いただいている。この機関紙をお読みになられている皆様にも大変お世話になっております。この場をお借りして、あらためて当該事業へご支援ご協力を賜っておりますことに心からお礼を申し上げます。

## (2) 障害者重点分野就労促進支援事業

清掃における就労に必要な基礎知識と技術習得を専門家（兵庫ビルメンテナンス協会による講師派遣）から教わる研修や、知的障害者等を対象に「生活援助従事者（旧3級ヘルパー）」の資格取得に向けた研修も行っています。研修内容によって学びの期間に幅がありますが、就職に向けて自信がついた、プロから教えて貰うことで大変勉強になった、と喜んでいただいている。



## (3) ひょうごジョブコーチ推進事業



兵庫県が独自にジョブコーチ制度を創設したものであり、ジョブコーチが障害者の職場を訪問し、職場適応・定着を図るため個々の特性を踏まえた専門的な伴走型支援を実施します。

具体的には、兵庫県下全ての地域で、ジョブコーチ支援を必要とする障害者やその職場等の求めに応じて登録ジョブコーチを派遣する事業であり、現在、28名の登録ジョブコーチが各地で奮闘しています。

働いている上の困りことは、職場での仕事や対人関係にとどまりません。ご家族の体調不良が悩みの種になる方もおられますし、ご自身の拘りや特性が困りごととして支援が必要な場合もあります。それぞれご利用者の状況に合わせて、必要なときに適切な支援ができるように取り組んでいるところです。

能開では、これから就職活動をしようと考えておられる方を応援するために、

- ①自分に合った職種を選ぶため、様々なツールを活用して「職能評価・訓練」を行い
- ②仕事の中身を知りたい・体験してみたいとの思いを支援するために「しごと体験」を実施し
- ③技術を身につけたい、専門家から学びたいとご希望される方に向けた「研修機会」を企画し
- ④就職が決まれば「ジョブコーチによる伴走型支援」を提供する

など、地域の支援機関の皆様と連携しながら、ワンチームとなって様々な支援を行っています。

**社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター  
能力開発部長兼職業能力開発施設所長・あけぼのの家所長**

**今中 隆洋**



※兵庫県障害者就業支援ネットワーク会議 事務局

※社会福祉士

特別養護老人ホームで3年間ケアワーカーを努めた後、知的障害者施設の支援員として始めて障害のある方々の就労支援に携わり、気づけばもうすぐ30年。